

小説の翻訳にみる中国語と日本語のオノマトペ

— 郝景芳の作品から —

孫 琦

1. はじめに

中国 SF 小説が話題となっているが、そのひとり郝景芳（ハウジンファン）の小説 2 作品を選び、現代中国の若い作家の使用することばを対象にオノマトペ表現における日中対照を行う。郝景芳は、今中国でもっとも注目されている「80 后（80 年代生まれ）」という新世代の女性 SF 作家の一人で、2014 年に発表した“Folding Beijing”《北京折叠》は、2016 年にサイエンス・フィクション小説を対象とした世界文学界で最も荣誉がある賞の一つである「ヒューゴー賞 中編小説部門」を受賞している。今回対象に選んだもう一つの郝景芳の作品は短編小説《去远方》である。この作品の翻訳版『遠くへ行くんだ』（上原かおり訳）は、2020 年に『中国現代文学』22 号に発表された。

日本語翻訳版に見られるオノマトペの用例を集めて、それに対応する中国語原文の表現と比較しながら、両言語の特徴を分析していく。日本語の擬音語に訳された用例は中国語でも擬音語で対応している場合は多いが、擬態語においては中国語ではさまざまな表現形式をとっているため、その実態を考察し、日本語の擬態語が中国語ではどのような表現であったかを表現のパターンごとに整理する。その中で、特に中国語の四文字熟語と日本語のオノマトペの対応を取り上げる。先行研究では、日本語原作の文学作品を対象としているものが多いが、今回のような反対の場合の研究はほとんどない。本稿では、原作が中国語の文学作品の翻訳に現れる日本語のオノマトペを中心にそれぞれの実例を挙げながら、日中両言語の擬音語擬態語表現の違いを明らかにしたい。

2. 研究対象

本研究では、郝景芳の以下の2作品を対象とする。

- ・原作：《北京折叠》（《孤独深处》郝景芳 江苏凤凰文艺出版社 2016）
 翻訳版：『北京 折りたたみの都市』（『郝景芳短篇集』郝景芳著 及川茜訳 白水社 2019）
- ・原作：《去远方》（《去远方》郝景芳短篇小说集 江苏凤凰文艺出版社 2016）
 翻訳版：『遠くへ行くんだ』（『中国語現代文学』22号 中国現代文学翻訳会編 ひつじ書房 2020）

『北京 折りたたみの都市』は、産業の自動化が進んだ北京が舞台となっている。人口の増加と失業問題を解決するために、都市は貧富の差によって三つの空間に分割される。24時間ごとに三つの空間が回転し、交替する。第三空間のゴミ処理場で働く48歳の老刀（ラオダオ）は娘を幼稚園に入れるお金を工面するため、第一空間に忍び込もうとするが、そこで彼が体験したことや出会った人々を中心に物語が展開していく。

『遠くへ行くんだ』の「訳者あとがき」では次のように作品を紹介している。「本編は、不治の病の学生『わたし』の旅を通して、人生に関する思索を表現している。作中、英国を走っていた列車は不意に中国を走りだし、いつの間にか米国を走っている。旅の途中の出来事や見聞が、作者の持つ中国社会像や世界像、人生観の譬喩であることは想像に難くない。危機感をともなった譬喩の数々には目を奪うものがあるが、それら時空の錯綜するイメージが疾走感をともなって表出されている点も読みどころと言えるだろう。（中略）また作者は本編を初期創作の集大成に位置付けており（《去遠方》序文）、彼女の後の作品や、実際の事業展開に通ずるところがあるため、ここに訳出した。」（p.42「訳者あとがき」による）

3. 先行研究

3.1 日中擬音語・擬態語の定義

日本語では、「擬音語」と「擬態語」を合わせて「オノマトペ」と呼ぶことが多い。山口仲美編 2003 では、次のように定義している。

擬音語 = 物音や声を日本語の発音で写しとった言葉。

擬態語 = 物の状態や様子を日本語の発音でいかにもそれらしく写しとった言葉。

(『擬音語・擬態語辞典』山口仲美編 2003 講談社)

一方、中国語では辞書には「拟声」「拟态」という項目語はあるが、それらは本来の「擬音」と「擬態」の意味で使われている。『現代漢語辞典』では、「象声词」(擬音語)について次のように定義している。以下、訳は筆者による。

象声词：摹拟事物的声音的词，如：哗、轰、乒乓、丁东、扑哧。

(訳) 擬音語：物事の音声をまねた言葉，「嘩、轰、乒乓、丁东、扑哧」の類。

(『現代漢語辞典』商務印書館 2001 修訂本)

専門書の中では、たとえば石饒 2010 p.279 のように、「拟声词」(擬音語)と「拟态词」(擬態語)の用語が使われているものもある。

「总结一下 A 里 AB 式重叠形式的发展，可以归纳如下：

拟声词 (唏留哗喇) → A' 里 AB (唏哩哗喇)

拟态词 (急留骨碌) → A' 里 AB (叽哩咕噜) (骨里骨碌)」

(訳) A 里 AB 式重ね形式の変化過程を以下のようにまとめることができる：

擬声語 (唏留嘩喇) → A' 里 AB (唏哩嘩喇) ガチャガチャ

擬態語 (急留骨碌) → A' 里 AB (噠哩咕嚕) (骨里骨碌) ころころ、ごろごろ

3.2 オノマトペと中国語の対応に関する先行研究

オノマトペにおける日中対照研究は、日本語の文学作品に使われているオノマトペを対象に、その中国語翻訳の様相を分析するものがほとんどである。日本語から中国語に、オノマトペが中国語に翻訳されるパターンについて言及されている先行研究の該当部分を引用し紹介しておく。

孫琦 2003 は、中国語の ABB 型形容詞と日本語の対応について、例えば「绿油油（青くてつやつやしたさま）」「粘糊糊（ねばねばしているさま）」「圆溜溜（まんまるいさま）」「空荡荡（がらんとしているさま）」などのように、日本語から見ても中国語から見ても、様態修飾においては中国語の ABB 型形容詞が日本語の様態副詞である擬態語との対応が見られ、特徴的であると指摘している。(p.78-90)

王冠華 2004 は、日本語の擬態語はそのまま中国語に移行できず、形容詞をはじめ、動詞、副詞、成語、その他の熟語、慣用句などの表現であらわされていると指摘し、さらに、直接訳すことができないから、動詞と結びついて中国語に訳されることが多い、と述べている。(p.265-266)

また、石川創 2007 は日本語のオノマトペの中国語訳を定型と非定型に分け、用例に基づいて分析を行っている。中国語訳のうち ABB、AABB 型が多く、中でも形容詞の重畳形が多いことを指摘している。また、「一屁股坐下」「一窩蜂地」「一步一步」など「一」を含む数量詞、動量詞になる場合も 2 割ほどあった。副詞や「地」をとまなう形容詞などが動詞を修飾することで日本語のオノマトペに匹敵する機能を持たせている場合も多いことから、中国語では形容詞や副詞の持つ概念的な意味が、さまざまな状況をあらわすのに用いられると考えられる、と述べている。(p.108)

論説文における日本語オノマトペの中国語訳の類型をまとめたものとして張新力 2010 がある。「翻訳に使われた例文は新聞（主に『毎日新聞』）の社説、論評、評論、コラムから擬態語を使った句を集めたもので、それらを中国語に訳し、規則性と注意点を探ってみる。」とし、その結果、六つの翻訳パターン

にまとめられている。一、中国語の擬態語に 二、擬音語から転じた擬態語の意識 三、同語異訳 四、異語同（類語）訳 五、四字熟語に 六、文脈から意識（p.35-53）

以上に挙げた先行研究のいずれも、原作日本語の小説や論説を対象にして、その中国語訳との対応を論じているものである。これらの研究結果から多くの示唆が得られるが、本稿はその反対の場合、つまり原作が中国語の作品で、その日本語訳の中に見られるオノマトペ表現に焦点を当てて、両言語の対応関係の検証を試みる。

4. 用例について

4.1 用例の採取

本稿で使用する用例は、翻訳本からまず日本語のオノマトペに訳されているすべての文と、そのもとである中国語の原文である。2 作品を合わせて計 120 例（原文の中国語異なり語数 92 語）が採取できた。以下、例文を引用する際にそれぞれ「北京」「遠く」と用例の末尾に示す。

4.2 用例の分類

採取した全 120 例のうち、日本語のオノマトペに訳される場合の中国語表現には次の 8 パターンが見られた。日本語のオノマトペから中国語の翻訳を考察した先行研究で指摘されている翻訳のパターンとほぼ一致する結果となった。

1. 擬音語（19 例）
2. AA 型（29 例）
3. AABB 型（8 例）
4. AA ○○、○○ BB 型（5 例）
5. ABB 型（4 例）
6. 一～型（11 例）
7. ABCD 型熟語（13 例）
8. その他（31 例）：形容詞（22 例）・動詞（7 例）・フレーズ（2 例）

それぞれの翻訳パターンの例をまず挙げてから、分析していく。

- （1）还没跑到，就听到身后在压抑中轰鸣的隆隆和偶尔清脆的嘎啦声。（北京）

たどり着く前に、背後からごうごうという抑えた轟きと、時折まじるカラカラと甲高い音が聞こえた。

パターン 1. 擬音語の例として、高層ビルが折りたたまれるときに聞こえてくる「隆隆 lónglóng」「嘎啦 gāla」という音が日本語でそれぞれ「ごうごう」「カラカラ」に訳されている。中国語擬音語の多くの場合は「～声」、つまり音象徴語のあとに「～音」というように、擬音語であることをはっきりと示すことが多い。19 例のうち、「嘀嘀咕咕」(ぶつぶつ)、「吧唧」(ちゅぱっ)、「咯咯」(げらげら)のような、中国語では擬音と擬態の両性語と捉えられるものもここに含まれる。

(2) 又给他胸口别上一个微微闪着红光的小徽章，身份认证。(北京)

胸にうっすら赤く光るバッジの身分証をつけた。

パターン 2. AA 型の例として、「微微」は「かすかに」と副詞に訳すこともできるが、訳では「うっすら」という擬態語を使って「赤く光る」様子を表現している。中国語 AA 型の重ね型の多くは、一般的な副詞としてよく使われている。たとえば、「紧紧」(しっかり) 4 例、「慢慢」(ゆっくり、だんだん) 4 例、「缓缓」(ゆっくり) 10 例、「偷偷」(こっそり) 6 例が見られた。

(3) 楼道里腾起雾，化为密实的肥皂泡沫，飘飘忽忽地沉降，然后是一阵水，水过了又一阵热蒸汽。(北京)

通路に霧がかかり、細かな石鹸の泡となって、ふわふわと下に降り、それから水が流れ、流し終わるとスチームが出た。

パターン 3. AABB 型として、「飘飘忽忽」のほかに、郝景芳の作品の中から、「飘飘悠悠」「飘飘荡荡」といった同じ AA で BB が異なる AABB 型の語も見

られた。接尾辞の機能を持つ BB と自由に組み合わせて、新たな語を作り出すという特徴は日本語のオノマトペにも共通する。つまり、中国語のこのような四文字の熟語も一種のオノマトペとみることができるのであろう。これについては後述の 5 章で詳しく考察する。そのほかの例として、「密密麻麻」（ぎゅうぎゅう）、「迷迷糊糊」（うとうと）、「清清楚楚」（はっきり）などがある。

(4) 村子空空如也，风呼呼地吹，四周再次黑暗，（北京）

村はがらんとして、風がヒューヒューと吹き、あたりは一層暗くなった。

(5) 他转过身，向我怒气冲冲地吼着，（北京）

彼は振り返り、かんかんになって怒鳴った。

パターン 4. AA ○○型、○○ BB 型の例として、「空空如也」「怒气冲冲」はいずれも一部分だけ重ねてできた四文字熟語であるが、重ねた部分が擬態的な意味を担っているので、「がらんとして」「かんかんになって」とオノマトペに訳されている。そのほか、「滚滚洪流」（どンドン流れて）「热气腾腾」（もうとうと湯気が）「饥肠辘辘」（グーグー鳴った）などが見られた。

(6) 背包在肩上，沉甸甸的。（远方）

肩にかかるリュックは、ずっしりと重かった。

パターン 5. ABB 型の例として、「沉甸甸」（ずっしり）のほか、「慢悠悠」（ゆったり）「笑咪咪」（にっこり）はあったが、従来の指摘から見て、今回採取した ABB 型の用例はかなり少ない。どのように日本語で訳されているかを少し詳しく見ると、「脏兮兮」「湿漉漉」「黑漆漆」「明晃晃」などの ABB 型形容詞は特にオノマトペに訳されるのではなく、「うす汚れた」「濡れた」「まっ暗闇」「明るく」の動詞の連体形や形容詞を使って対応していることがわかった。

- (7) 头发有点自来卷，蓬松地堆在头顶，说起话来眉毛一跳一跳，很有喜剧效果。(北京)

やや縮れた髪がもじゃもじゃと頭にのり、口を開くたびに眉毛がびよこびよこつり上がって、コミカルな効果をあげている。

パターン6. 一～型の例として、「一下」「一跳」などの「一」を含む数量詞、動量詞になる場合である。「一」は日本語の「一飛び」「一走り」と同じような意味であるが、動作をより臨場感があるように表現するため、「びよこびよこ」「ぱっと」などのオノマトペに訳されることが多い。「心里一惊」（ドキッとした）、「吓了一跳」（ぎょっとした）、「一下子哭了起来」（わっと泣き出した）などの例が見られた。

- (8) 白发老人斩钉截铁地说，废话，当然推迟。(北京)

老人はきっぱりと言った。当たり前だ、遅らせるに決まっている。

パターン7. ABCD型の熟語の例として、「斩钉截铁」は、「〈成〉決断力があり言動がてきぱきしている。（『小学館』）」という意味の成語で、「きっぱり」と訳されている。このほかに、「颤抖发飘」（ふらふらする）、「头晕脑胀」（くらくらして）、「闲七杂八」（ごちゃごちゃ）、「水泄不通」（ぎゅうぎゅう詰め）などが今回の用例にあった。このような中国語の成語が日本語のオノマトペと対応する例も数多く見られた。

- (9) 身材高而宽阔，虽没有突出的肚子，但是觉得整个身体很厚。(北京)

背が高くがっしりした体格なので、腹は出ていないが厚みのある体つきだ。

パターン8. 形容詞の例として、中国語の一般形容詞が日本語のオノマトペ

と対応するものが数多く見られた(22例)。「沉重」(どっしり)、「杂乱」(めちゃくちゃ)、「仔细」(じっくり)、「昏沉」(ぼんやり)、「空旷」(がらん)などがある。これは、様子をより具体的に表す中国語形容詞の豊富さに由来する。日本語ではそのまま対応する形容詞が存在してなくて、オノマトペがその表現の役割を担っていると考えられる。ここで用いられる多くのオノマトペは、日本語の中で使用頻度の高い語で、あまりオノマトペと意識せず、副詞として使われているものが多い。

「日本語教育語彙表 Ver 0.1」のリストには、以下に挙げる日本語オノマトペのすべてが掲載されているが、いずれも日本語の中では基礎的な語彙であるため、翻訳する際にもあまりオノマトペと意識せず用いられている。()内の中国語は今回の用例から。

「しっかり」(緊緊)、「こっそり」(偷偷)、「うっすら」(微微)、「じっくり」(仔细)、「どっしり」(沉重)、「ずっしり」(沉甸甸)、「ゆっくり」(缓缓、慢慢、缓缓)、「はっきり」(清楚、清醒、清清楚楚)、「ぼんやり」(恍惚、迷糊、昏昏沉沉)

(10) 这时，男孩忽然瞥见远处的一辆马车。(遠方)

この時、青年の目に、遠くを走る馬車がちらっと見えた。

パターン8. 動詞の例である。形容詞の場合と似ていて、中国語では、動詞の意味が細分化され、さまざまな様態を表現できるように発展してきている。それに対して、日本語では動詞そのものでは表現しきれず、なんらかの修飾語によってはじめて具体的な動作の意味を表すことができる。このような語彙の非対応はこれまでの研究でもしばしば指摘されている。

5. 四文字熟語とオノマトペの対応について

前述の対応パターンの説明の中でも触れたように、中国語の四文字からなる

熟語が日本語のオノマトペと対応している場合が多く見られることが今回の用例調査でわかった。ここで特徴的に表れているこのような対応を中心にさらに検証する。武田みゆき 2001 には次のような記述がある。

「中国語には、日本語の擬態語にあたる文法用語がないとの指摘がある。擬態語は、感覚的な性格をもつものであるが、中国語の表現が、「-地」で状語を作るという生産性の高いこと、補語表現や四字成語の頻用が日本語の擬態語を用いた表現を代替していることも、特に擬態語として意識させない理由にあげられる。」(p.110)

また文学作品以外に、論説文でも四文字語とオノマトペの対応が見られることを指摘した張新力 2010 がある。

「実際にオノマトペを中国語に翻訳する際、四字熟語に訳される場合がかなり多い。状态的感覚的なイメージのオノマトペを奥深いイメージの四字熟語に訳される理由として、四字熟語の文字数に比べ情報量が多いという特徴にあり、その上、四字熟語には比喩が多く、イメージしやすい点がオノマトペに通じていると思われる。」(p.51)

5.1 本研究の四文字語分類

本稿の対象となる「四文字熟語」は、「成語」(辞書で「成語」と示すもの)と、「成語」以外の一般的に四文字で使用される熟語(辞書で見出し語としてある)のほかに、たとえば「潇洒俐落」(「潇洒」と「俐落」の組み合わせ)のように、辞書には見出し語として掲載されていないが、二字語同士が臨時的に結合する四文字熟語や、「迷迷糊糊」(「迷糊」の重ね型)のような二字語の重ね型も含まれる。日本語のオノマトペとの対応に考察の重点があることから、本稿では以下のように語構成から「重ね型」と「ABCD 型」に分けて用例を考察する。()内は作品からの翻訳例である。

I 重ね型

例：AABB：飘飘忽忽（ふわふわと）

AA ○○：滾滾洪流（洪水のようにどンドン流れて）

○○ BB：热气腾腾（もうもうとした白い湯気）

II ABCD 型 一部だけ擬態的の要素が含まれる、あるいは語全体が擬態的に使われる四文字からなる熟語

例：光亮润泽（しっとりとして光沢がある）

潇洒俐落（きびきびとして洗練されている）

精干机敏（きびきびとして機転がきく）

5.2 オノマトペと対応する場合と対応しない場合の用例

四文字熟語とオノマトペが対応している例は計 26 例あった。以下に中国語の語例すべてを示しておく。語例の後の（ ）内の数字は例数を示す。

AABB (8 例)：飘飘忽忽, 迷迷糊糊, 清清楚楚, 三三两两, 密密麻麻, 飘飘悠悠, 空空荡荡 (2)

AA ○○、○○ BB (5 例)：滾滾洪流, 空空如也, 热气腾腾, 饥肠辘辘, 怒气冲冲

ABCD (13 例)：头昏脑胀, 目瞪口呆, 斩钉截铁, 喧嚷嘈杂, 颤抖发飘, 破裂古老, 闲七杂八, 如梦初醒, 光亮润泽, 潇洒利落, 精干机敏, 水泄不通, 面色漠然

日本語訳については、例(11)～例(14)からわかるように、日本語ではそれぞれオノマトペで対応している。

(11) 老刀躺在床上，又迷迷糊糊睡了。（北京）

老刀はベッドに横たわり、またうとうとした。

(12) 他转过身，向我怒气冲冲地吼着，（远方）

彼は振り返り、かんかんになって怒鳴った。

- (13) 我看着他吃, 自己也饥肠辘辘起来。(远方)

見ているうちに、わたしの空きっ腹がゲーゲー鳴った。

- (14) 他被整个攀爬弄得头晕脑胀, 胃口也不舒服。(北京)

よじ上っているうちに頭がくらくらして、胃も気持ち悪かった。

次に、四文字熟語が日本語のオノマトベに訳されていない例についてみてみよう。計 23 の語例をすべて示しておく。

AABB (12 例): 前前后后, 密密匝匝, 上上下下, 昏昏沉沉, 熙熙攘攘, 辛辛苦苦, 隐隐约约, 形形色色, 匆匆忙忙(2), 零零星星(2)

〇〇BB (4 例): 气喘吁吁, 小心翼翼, 银光闪闪, 气势汹汹

ABCD (7 例): 呲牙裂嘴, 左摇右晃, 狼吞虎咽, 成群结队, 兴高采烈, 人多势众, 恍然大悟

次の例(15)~例(17)の日本語訳では、動詞による表現で訳すなど、日本語では必ずしもオノマトベで対応しているわけではない。ただし、例(15)は「はあはあと息を切らした。」、例(17)は「ゆらゆらと左右にふらつきながら、」と、どちらもオノマトベを使って訳すことも可能だと考えられる。

- (15) 费力气顶住某个透明的影子, 偶尔来一个背摔, 气喘吁吁。(北京)

力いっぱい何やら見えない相手を押し返し、ときどき背負い投げをして、息を切らした。

- (16) 正一边龇牙咧嘴地揉着胳膊, 一边大声叫骂着要站起来找人报仇。(远方)

痛みに顔をゆがめて腕をさすりながら大声で罵り、立ち上がってやり返そうとしている。

- (17) 身体被吹得左摇右晃, 然而手却一刻不停。(远方)

暴風に吹かれて右へ左へふらつきながらも、片時も手を休めない。

5.3 四文字熟語の文としての成分による訳し方の違い

中国語の四文字熟語が、日本語のオノマトペと対応する場合としない場合の傾向を見るために、文中に四文字熟語がどのような成分として使われているかという視点から見てみよう。連体修飾語（定语）になる場合と、連用修飾語（状語/補語）になる場合と、述語（謂語）になる場合に分けてみると、述語として使われているものがほぼオノマトペと対応していることがわかった。四文字熟語とオノマトペが対応している ABCD 型の 13 例を見ると、そのうちの 9 例が述語として使われていて、例(18)と例(19)のように、9 例のうちの 8 例が日本語でオノマトペに訳されている。

(18) 他赶车的动作非常潇洒利落, (远方)

彼が馬車を御する動作はきびきびとして洗練されていた。

(19) 身体会有些颤抖发飘, 但精神不受影响。(北京)

身体は少しばかりふらふらするが、精神には影響なかった。

今後はさらに多くの用例を考察する必要があるが、中国語の四文字熟語がオノマトペに訳されない理由がいくつか考えられる。対応するオノマトペがなく、訳せないのか、それとも対応するオノマトペはあるが、文脈に合わないため使われないのか、または十分に訳すことは可能だが、あえてそれ以外の表現を使うのかなど、さまざまな状況がある。文体に影響されることや、書き言葉や話し言葉による制約、恣意的にオノマトペに訳すのかそれとも必然的な対応であるかなどについて、次に取り上げる翻訳者へのインタビューから多くの示唆があった。

5.4 オノマトペ使用に関する翻訳者へのインタビュー

翻訳者が訳すときにオノマトペをどう扱うかを知りたいと考えていたが、ある一人の翻訳者に話を聞くことができた。

「オノマトペを使うかどうかの判断基準は、作品の雰囲気・文章のリズム・文脈などがある。原則として、文体に合うかどうかで決めます。オノマトペを使った場合、作品は『コミカル・軽快・子供っぽい・感覚的』のような印象になる。これらの印象を与えたくない場合は、オノマトペは使いません。つまり、雰囲気が重く、硬い作品や、論理的な文体・内容など、理性的な側面が強い作品には、オノマトペは極力使わないようにします。逆に、必ずオノマトペにするのは、原文でオノマトペ（擬音語）として使われている場合。特に、狭義の擬音語（ゴロゴロ、パタパタ）、動物の鳴き声など。」

「語彙だけを単独で訳す場合にはオノマトペが的確なのかもしれませんが、作品全体の中で訳す場合は、いくつかの選択肢の中で文脈に基づいて選ぶことになりますので、オノマトペを必ず優先的に選ぶかという、そうとも言い切れません。」

日本語のオノマトペと中国語の重ね型や四文字熟語の対応においては、やはり文脈とリズムそして文体によって決定することが多いことがわかった。

5.5 英訳版からの日本語訳との比較

郝景芳の《北京折疊》という作品は、本稿で参照してきた及川茜訳のほかに、もうひとつの日本語翻訳版がある。大谷真弓訳『折りたたみ北京 Folding Beijing』で、中国語原作の Ken Liu による英訳版を日本語に翻訳した作品である。ここでは、英語から日本語、そして中国語から日本語のそれぞれの翻訳版における日本語表現を比較してみた。原文の中国語の四文字熟語のいくつかの例について、それぞれの日本語版でオノマトペを使用して訳されているかどうかを調べた。その結果、両方の日本語翻訳版ともオノマトペに訳されているものと、どちらか一方の版でオノマトペに訳されているものが見られた。中国語版から日本語に訳した作品からの引用は、（及川訳）と示し、英語版から日

本語に訳した作品からの引用は、(大谷訳)と示す。原文の中国語の用例はすべて郝景芳《北京折疊》からである。

I どちらの日本語訳版もオノマトペを使用している。

(20) 老太太目瞪口呆, 阿贝, 阑阑看得傻了。

老夫人は口をあんぐり開け、阿貝と闌闌も呆然とした。(及川)

老婦人はぎょっとして、阿貝と闌闌も凍りつく。(大谷)

(21) 秋冬加收 10% 取暖费, 合同里写得清清楚楚唉。

秋冬は一〇パーセントの暖房費が加わるって、はっきり契約書に書いてあるじゃないか(及川)

ほら、ここにははっきりと書いてあるでしょう——秋と冬は、暖房費として十パーセントの追加料金が課されますって(大谷)

例(20)の「目瞪口呆」(目を丸くし口をぼかんと開ける;呆然とするさま。あつけにとられるさま。『中日』)という成語を、及川訳では「口をあんぐり開け」と訳し、大谷訳では「ぎょっとして」と訳されている。どちらもオノマトペを用いているが、異なる擬態語となっている。例(21)の「清清楚楚」については、どちらの版も「はっきり」と訳されていて、中国語形容詞の「清楚」(明らかである。はっきりしている。『中日』)とその重ね型「清清楚楚」は、ほとんどの場合において日本語の「はっきり」と対応しているからである。

II 英語版から日本語に訳した版のみオノマトペを使用している。例(22)(23)
中国語原文から日本語に訳した版のみオノマトペを使用している。例(24)
~(27)

(22) 两旁狼吞虎咽的饥饿少年围绕着他。

腹を減らした若者たちがむさぼり食っているのに両側から取り囲まれる

具合になる。(及川)

すると腹を空かせたティーンエイジャーたちが、老刀のまわりにしゃがんで、ががつと食事を始めた。(大谷)

- (23) 高樓弯折之后重新组合，蜷缩成致密的巨大魔方，密密匝匝地聚合到一起，陷入沉睡。

高層ビルは折れ曲がった後で新たに組みあわせり、身体を縮めて緻密で巨大なルービックキューブのように一体となって、深い眠りに就く。(及川)

さっきまで超高層ビルだった小さなブロックがもぞもぞと寄り集まり、緻密で巨大なルービックキューブとなって、深い眠りに落ちていくのだ。(大谷)

例(22)と(23)は、及川訳ではオノマトペを使っていないが、大谷訳では「狼吞虎咽」((食事を)大急ぎでががつかきこむさま、『中日])という成語と、「密密匝匝」(ぎっしり詰まっているさま、『中日])という重ね型が、それぞれ擬態語の「ががつ」と「もぞもぞ」に訳されている。

一方で、例(24)～(27)は及川訳ではいずれもオノマトペを使っているが、大谷訳ではオノマトペ以外の表現に訳している。

- (24) = (11) 老刀躺在床上，又迷迷糊糊睡了。

老刀はベッドに横たわり、またうとうとした。(及川)

老刀はベッドに横になり、また眠りに落ちた。(大谷)

- (25) = (3) 楼道里腾起雾，化为密实的肥皂泡沫，飘飘忽忽地沉降，

通路に霧がかかり、細かな石鹸の泡となって、ふわふわと下に降り、それから水が流れ、流し終わるとスチームが出た。(及川)

やがて霧のようなものが廊下に充満したかと思うと、石鹸の泡が変わって宙に漂い、それから水が床を洗い流し、つづいて熱い蒸気が噴き出し

た。(大谷)

- (26) 楼道里喧扰嘈杂，充满刚睡醒时洗漱冲厕所和吵闹的声音

通路はごたごたとやかましく、目覚めの時間の洗面やトイレを流す音、
(及川)

廊下は騒々しく混沌としていて、いつもの朝の混乱が繰り返り広げられてい
た——歯を磨く者、トイレの水を流す音、(大谷)

- (27) 食客围着塑料桌子，埋头在酸辣粉的热气腾腾中，饿虎扑食一般，白色蒸
汽遮住了脸。

食事客はプラスチックのテーブルを囲み、酸辣粉の湯気の中にうつむい
て、飢えた虎のようにすすり込み、もうもうとした白い湯気に表情は隠
れていた。(及川)

人々は酸辣米粉の丼に顔を突っ込むようにして夢中で食べているので、
白い湯気で頭が見えない、(大谷)

以上の用例に見られる四文字熟語の辞書での意味と合わせて詳しく見てみる。「迷迷糊糊」は「迷糊」の重ね型である。「迷糊」はつきりしない、ほんやりしている。『中日』)、「飘飘忽忽」は「飘忽」の重ね型である。「飘忽」(雲や風が)軽やかに流れる。『中日』)、「喧扰嘈杂」は「喧扰」と「嘈杂」を組み合わせた四文字熟語。「喧扰」やかましくて邪魔になる。騒々しくて迷惑をかける。「嘈杂」(音が乱雑で)がやがやと騒がしい。『中日』)、「热气腾腾」は「热气」と接尾辞「腾腾」を組み合わせた四文字熟語である。「热气」生气、生き生きした気分;熱気、にぎやかな雰囲気。「腾腾」〔接尾語〕〔形容詞・名詞の後について「気が立ち昇る」様子を表す状態形容詞を作ったり、語幹を強調したりする〕『中日』)。この4つの四文字熟語を及川訳ではそれぞれ「うとうと」「ふわふわ」「ごたごた」「もうもう」とオノマトペに訳している。

以上、英語からの翻訳文と、中国語からの翻訳文を比較してみた。及川訳では、中国語の四文字熟語が影響してオノマトペが多用されているのに対して、

大谷訳ではオノマトペはあまり使用されていなかった。英語版から訳す際、オノマトペを使用するか否か、もととなる英語の文体からの影響が大きいと思われる。

6. おわりに

中国の現代作家郝景芳の小説2作品を対象に、その日本語訳に見られるオノマトペに注目して、対応する中国語原文の表現について分析を行ってきた。日本語の擬態語で表現されるようなことを、中国語ではさまざまな形式をとって、生き生きとした表現にすることができる。特に本稿では今まであまり言及されてこなかったオノマトペと四文字熟語の対応に注目した。中国語では小説に限らず、新聞の紙面などにも成語を含む四文字熟語が盛んに使われる。中国語の四文字からなる熟語と日本語のオノマトペとの共通点として、中国語の四文字熟語は1文字が1音のため、全体で四音節となってリズム感に優れている。日本語のオノマトペも四音節のものが比較的多く、また繰り返しによってリズムを出すことにも共通している。意味においても、どちらも対象に対して、既成のフレーズによって意味を簡潔かつ的確に表現でき、しかも文章に彩りを添える修飾効果があるため、表現の幅が広がるという共通の特徴を持っている。ゆえに、オノマトペと四文字熟語の対応が今回採取した実例に多く見られた。今後は、中国語と日本語訳において、構文あるいは文脈による訳し方の傾向、意味をくみ取って前後の表現とのバランスを考慮して訳す工夫、ひいては訳者が自分の文体を作るためのことばの選び方などについても引き続き究明していきたい。また、作品のジャンルや作家によって、中国語の重ね型や四文字熟語を多用するかどうか今後視野に入れて考えていきたい。

参考文献

石川創 2007 「オノマトペの日中比較：両性オノマトペの視点から」『早稲田大学国語学
研究と資料』30, pp.99-110

- 王冠華 2004 「日本語の擬音語・擬態語の中国語訳の表現について『経営研究第17巻第2・3合併号』 pp.257-279
- 王湘榕 2014 「小説『ノルウェイの森』の三種の中国語：訳に見られる擬態語について『文体論研究』日本文体論学会編 60, pp.61-74
- 牛雨薇 2021 「日中両言語における四字熟語の使用頻度に関する一考察—欧米文学作品の日中訳本を手掛かりに—」『日本アジア研究』第18号 pp.1-22
- 呉川 2005 『オノマトベを中心とした中日対照言語研究』白帝社
- 孫琦 2003 「中国語の派生形容詞と日本語の様態副詞の対応」『ことば』24号, pp.78-90
現代日本語研究会
- 武田みゆき 2001 「中国語にみる共感覚比喩についての一考察：擬音語の擬態語化をめぐる」『ことばの科学』14, pp.107-118 名古屋大学言語文化部言語文化研究会
- 張新力 2010 「日本語オノマトベの中国語訳の類型（社説・評論編）」『言語と文化』pp.35-54 愛知大学語学教育研究室紀要
- 兪鳴蒙 2018 「日中四字熟語・成語に関する調査研究」『楨大人文学』25, pp.117-136
撰南大学出版
- 郭锐 2002 《现代汉语词类研究》商务印书馆
- 石铨 2010 《汉语形容词重叠形式的历史发展》商务印书馆
- 『日中擬声語・擬態語辞典』郭華江主編 1994 東方書店
- 『擬音語・擬態語辞典』山口仲美編 2003 講談社
- 『中日辞典』第2版 2003 小学館（電子版）
- 『日中辞典』第3版 2015 小学館（電子版）
- 「日本語教育語彙表 Ver 0.1」<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV/>

対象作品

- ①原作：《北京折叠》（《孤独深处》郝景芳 江苏凤凰文艺出版社 2016）
翻訳版1：『北京 折りたたみの都市』及川茜訳（『郝景芳短篇集』郝景芳著 及川茜訳白水社 2019）
翻訳版2：『折りたたみ北京 Folding Beijing』大谷真弓訳（『折りたたみ北京—現代中国SFアンソロジー』ケン・リュウ編 中原尚哉・他訳 早川書房 2019）
“Folding Beijing” 2014 by Hao Jingfang. First Chinese publication: ZUI Found, February 2014; first English publication: Uncanny, January-February 2015, translated by Ken Liu. English text 2015 by Hao Jingfang and Ken Liu.
- ②原作：《去远方》（《去远方》郝景芳短篇小说集 江苏凤凰文艺出版社 2016）
翻訳版：『遠くへ行くんだ』上原かおり訳（『中国語現代文学』22号 中国現代文学翻訳会編 ひつじ書房 2020）